黒部市総合振興計画審議会　第４回　第２部会（産業経済）　会議録

日　時　：　平成２４年５月２４日（木）１０：００～１１：５５
場　所　：　市役所黒部庁舎３０１会議室
出席者　：　委員６名（欠席３名）、専門委員１名（欠席無し）
　　幹事４名、計画主任５名（欠席１名）、事務局３名

【事務局】
それでは、ただいまから黒部市総合振興計画審議会第４回第２部会を開催いたします。
まず初めに、このたびの異動等によりまして大川俊様が退任され、林茂様へとお替わりになっておられます。本日は所用につきご欠席でございますけれども、林様には、何とぞ黒部市の総合振興計画策定に向けてご指導とご協力を賜りますようお願い申し上げるものでございます。
本日は、Ｂ委員、Ｃ委員、それとＧ委員からご欠席される旨ご報告を受けておりますので、会議に先立ちましてご報告申し上げます。
それでは、初めに、部会長よりごあいさつをお願いしたいと思います。

【部会長】
皆さん、どうもお忙しい中お集まりをいただきましてありがとうございます。新幹線の映像を見て、間近に新幹線が迫っているなという感じがしたわけでありますが。今回、新たに委員に就任されました林茂様には、今回は欠席でありますが、策定に向けてご尽力を賜りますようお願い申し上げる次第でございます。
さて、前回の部会開催後に、現況と課題から、施策の内容、そして、市民・ＮＰＯ・事業者などへのメッセージなどにつきまして、委員の皆さんからいただきましたご意見をもとに事務局で調整、見直しがなされ、提示されておりますので、委員の皆様方にご検討、ご確認をお願いしたいと存じます。
本日はさらに、本市を取り巻く社会状況の変化、アンケートを通じた市民ニーズの変化、そして、素案の見直しを踏まえ、後期基本計画においてはどのような視点で見直しがなされ、施策に反映されているかを整理した資料を提示されております。これにつきましても

ご確認、ご検討いただきたいと存じます。来月の６日には節目となる中間報告が予定されておりますので、本日がひょっとしたら最終になるかもしれませんが、部会としては最後の協議の場となります。そういうことで、委員の皆さんには、これまで以上に忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げ、開会にあたってのごあいさつとさせていただきます。どうかよろしくお願いいたします。

【事務局】

ありがとうございました。

それでは、議事に入りたいと思いますが、審議会条例の定めによりまして部会長が会議の運営に当たることになっておりますので、これからの進行を部会長にお願いしたいと存じます。

【部会長】

今ありましたように、規定に従いまして座長役を務めさせていただきます。

早速、次第に基づきながら議事を進めていきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

まず、報告事項の（１）前回部会以降の経過について、事務局からご説明願います。

【　説　　明　】

【部会長】

これにつきましては、何かご質問はありますでしょうか。

ないようであれば、報告事項につきましては以上とさせていただきます。

次に、分野別基本計画素案について、事務局からご説明願います。

【　説　　明　】

【部会長】

ありがとうございました。

それでは、議論に入りたいというふうに思います。

前回までのいろんな意見が、大分すばらしい文言で入っております。そういうところで、まず、２―１の農林水産業の振興というところから議論を始めていきたいと思いますが、いかがでしょうか。もう今回で最後ですから確認ですね。ここから修正というのは、若干はあるかもしれませんけど、ほとんどおわりにということですね。

【事務局】

若干は、もちろん、可能です。

【部会長】

そういうことでありますので、特段のご意見があれば、ひとつよろしくお願いしたいと思います。

なかなか、言葉だけで具体的なものが見えない、そういう点はありますけれども、そこは若干お許しをいただいて、この短い時間でそこまでの議論というのはなかなか難しい。

【Ｊ専門委員】

前回の意見について、今回いろいろと盛り込んでいただきましてどうもありがとうございました。

今回、また読ませていただきまして、２点ほど、もし盛り込められればお願いしたいなと思います。

１点目は、現況と課題の農業の振興のところに、今回、「国の施策に留意しつつ」というところなんですけれども、今、県のほうも総合計画を見直しまして、それから、農業・農村振興計画というものを、今年度からスタートするということで改定しているということでございまして、新しい施策もいろいろと出てくるということで、そういった県の施策もいろいろと活用していただきたいなというふうに思っております。そんなことで、ここの「国の施策に」というところ、もし、可能であれば、「国や県の施策に留意しつつ」ということを入れていただきまして、農林漁業の担い手づくりとか、振興策というものを活用していただければなというふうに思います。

それから、右側のほうで、施策の展開方針のところで、４つ目の点、「消費者ニーズに応える農林水産物の地域ブランド化と販路拡大を推進します。」というところがありますが、ここに、現況と課題のほうで、農山漁村の６次産業化ということがうたわれて、必要

であるというようなことを言っている関係で、やはり農林水産業とそれから商工業、それから観光業とどう連携して、具体的に黒部市の活性化に役立てていくかということを、やはり、この産業連携といいますか、そういったことを進めていく必要があるということで、販路拡大ということを、そこは６次産業化の中に入っている話でもありますので、「農林水産物の地域ブランド化と農山漁村の６次産業化を推進します」というような文言に修正をいただければ、もう少し各産業間が連携していろんなプロジェクトに取り組んでいくというような意味合いが出てくるのかなというふうに思いますので、また、ご検討をお願いしたいと思います。

以上です。

【部会長】

ありがとうございました。

今のご意見、いかがでしょうか、委員の皆様、いかがでしょうか。国や県という、大賛成で、ましてや６次産業化についても大賛成でありますけど、いかがですか。

【Ｆ委員】

今言われましたように、農業、工業、商業というふうに分かれている中で、なかなか表現しにくいのかもしれませんけれども、そういう垣根というのはどんどんどんどんなくなりつつあるのが現状ではないかなと、ますますこれからそういうふうな形で進んでいくのでは。農業の工業化であるとか、今言われた６次産業化であるとか、そういう部分というのは、これからどんどんどんどん進んでいくような気がしますから、それぞれの位置付け以外の何か表現方法があればいいのかなというふうに思いますけどね。全体でそういうことを言っておけばいいのか。

【部会長】

ですよね。

【Ｆ委員】

どうですかね。個々の部分ではこういう書き方にはなっていくと思うんですけれども。第２部会の総くくりの中にでもそんなことを言っておけばいいのかわかりませんけれども、

何かそんなことを盛り込んでいただければなと。

【部会長】

第１回目のときもそういうご意見がありましたですね。

【Ｆ委員】

ありましたね。

【部会長】

だから、そういうところの文言をきちっと入れていけるようなものが、それがちょっとまだ見えていなかったですね。だから、そういう点では、今、Ｊ専門委員が言われたような格好のものをもう少し明確にして入れていく。これは、最終確認は要らない話でしょうから、今までも議論してきたことでありますし、ぜひとも、そういう文言を明確な形で入れていただく。変に垣根をつくってしまうと、今までの時代がそのままずっと続くようなイメージになってしまうし、今はもう一回垣根がなくなって、新たなエリア分けというのはこれから出てくるんだろうなと。そこまでの議論はする必要はないと思うんですけれども、そういう点では、今までの垣根は取り省く、そういうことが今の時代かもしれないですね。そういうことで、事務局のほうでまたひとつよろしくお願いしたいと思います。

Ｈ委員、いかがですか、今のご意見。専門家に聞かないで、何か結論を出してしまったような。

【Ｈ委員】

いやいや、結構でございます。

【部会長】

そうですか。

【Ｈ委員】

垣根や、先ほどＪ専門委員が言われたように、県を１つ、国と県がやっぱり１つの上に立つということで入れたほうがいいと思いますし、ただ、現実に、農業産業というのは、

今まで全然、垣根のなかにあったという感もありますので、垣根は取り除かなければと言っていても難しいと思いますけど。

【部会長】

私は漁業だから、漁業の垣根もきちんと守っているわけでありまして、あまり人のことを言えないんですけど。

【Ｈ委員】

漁業も一緒、いや、農水産業ということで。

【部会長】

やっぱりいろんな違う目から企業化する、農業も企業化していく、漁業もそういう点ではそういうのが必要なんだろうなというふうには思っていますね。特に川端委員さんは、ＬＥＤで、工場内で野菜をつくるとか、そういう実験ももう始まって、もうやっていらっしゃるんですね。だから、特にこういう雪国であれば、冬場の野菜供給ということには、そういうのはやっぱり使わなきゃならない。だから、そういうのは、今まで農業をやっている人が、じゃ、そういうことができるかといったら、ちょっと難しいので、ほんとうに、第２次産業の皆さん方がきちっと技術導入をして、そして、農業の今までの方とコラボレートしてやるということが肝心になってくるんですね。だから、そういうのは、ばっと何かわかりやすく書いてあると市民の目にもわかりやすいんだけれども、言葉がなかなか難しい。短くすると消えていくんですよね。

【Ｈ委員】

気持ちは思っているんだけど、言葉にならないという。

【部会長】

ならないですよね。私たちなんかも、市場の活性化とか、今、魚の流通なんていうのは、市場外流通が主流になって、産地市場経由が今までは主流だったんだけど亜流になってしまった。だから、魚価安に対応できないですね。それでも、また、自分たちの権益だといって守っているとかですね。だから、市場のオープン化とかというのは、本来、とっくの

昔にやってなきゃならない話が今も続いていたり、非常に恥ずかしい話を言うわけです。そういう点では、垣根はいち早く取り省いて、いいところはどんどん取り入れていくという姿勢がやっぱり必要になってくるんです。

それでは、この部会はなかなか時間が長くなるものですから、早目に進みたいと思います。

２―２、工業の振興についてということで、短い文言でありますが、今言ったことの、１次産業とかそういうものとコラボレートする、あるいは、３次産業、観光ともコラボレートする、そういうもので新規事業の事業化ということが大切ではないかというふうに思っています。そういうことで、数少ない文言で修正されていますが、いかがでしょうか。

前回の部会で出ていました教育という、ここにちょっと就職活動で「地元企業が有する技術や特色を理解し、先ず地元での就職を検討しましょう。」ということで、文言は修正していただきましたが、前回、要は、子供たちに、小さいときから地域の企業とか産業とかそういうものを知っていただくことが大切なんじゃないかという議論があったというふうに思っています。そういう点では、１次産業、２次産業、３次産業、全部通して、教育というのは非常に大切だねと。東京にしか勤め先がないんだというんじゃなくて、地域にもこんな魅力ある農業もあり、水産業あり、工業もあり、観光もあってということを、小学生ぐらいのときから随時地域を知ってもらう、そういう教育というか、そういう活動が次の未来の地域社会をつくるのではないかというお話があったというふうに思っているんですけれども、それについては文言がなかなか入り切れませんでしたでしょうか。いかがでしょうか、事務局。

【事務局】

少々、ちょっと難しい面もあったりもしたんですが、何らかの形でそれをもう少し盛り込むことは可能かと思います。

【部会長】

子供たちを洗脳するというんじゃなくて、理解をしていただくと。だから、小さいときに植えつけられたイメージというのは、大きくなってもやっぱりそれがそういうふうに思ってしまっている。だから、中学校で、地域体験の１週間でしたっけ。

【Ｄ委員】

１４歳の挑戦。

【部会長】

１４歳のときの。あれなんかもすばらしいですよね。だけど、それだけじゃなくて、やっぱり小学校はどうなっているんだとか、そういう小さい子供たちのことも疎かにしないで、そういうところのプログラムに入れていっていただくということも大切ではないのかなというふうに思っていますが、事務局、いかがでしょうか。

【事務局】

今、部会長さんがおっしゃるとおりだと思っております。１４歳の挑戦については、ご承知のとおり、富山から出発したものが今、全国的に評価されまして、全国的に取り入れられているという状況もございますし、中学生に限らず小学生、そういった、今現在、いろんな体験学習も含めて各学校の分野で、例えば田植えにしても、いろんな部分で総合学習の時間等で組み込まれている部分もあります。

今回、事務局で、前回の教育という視点を盛り込むということで、地元の企業が有する技術や特色を理解しというところに入っているんだろうなと思いつつも、工業の振興においても教育というのは重要だというのは十分理解できておりますので、また、そういうことも含めて、いろんな、必ずしも工業ではないんですけれども、例えば、今回、改めて峡谷鉄道さんに、各学校から五、六年生の子供が、順番にそうやって地元のどういう特色あるものがあるかという、そういうのも総合の時間で取り入れておりますので、それが、今ここは工業の振興ということでもございますので。そういう部分に少しでも結びつくようなやり方を、また改めて、今、特に小学校っておっしゃいますので、小学校長会等々と話ししながら、結びつけるようなことも含めて、教育の分野ではまた検討いたしたいと思います。

【部会長】

よろしくお願いします。

皆さんの意見はいかがでしょうか。

【Ｉ委員】

今の話は、今事務局がおっしゃったとおりだろうと思うんですね。やっぱり農業も工業も商業も全部、全体を含めて、子供たちにどう認識をさせていくのかと、あるいは、体験活動させていくのかというのは、この中の、第２部会のところで一つ一つ入れていくのは大変難しい作業かなと思うので、これは教育の分野で、きちっとそこの部分についてフォローしていただくという形でいいんじゃないかなという気はします。

【部会長】

そういうことでよろしく。

【Ｉ委員】

ただ、それと、また……。

【部会長】

一言どこかに入っていればいいという、さっきの垣根を壊すという。

【Ｉ委員】

そうそう、中に入っていてもそうですね。

そのことで言うと、１４歳の挑戦は一生懸命皆さんやっておられるんですが、ちょっと聞くのは、やっぱり何か特定の企業に、どうしてもマンネリ化しているというような感じで、受け入れ先がかなり固定化されてきてしまっているという部分があるので、そこの部分については、黒部市は黒部市として、もう少し子供たちに、どういう企業がいいのかということも含めて、もっと考える、再検討と言うと言葉はちょっと悪いですけれども、そこらあたりについて若干、全体的に考えていただければいいのかなと。だから、受け入れ先のほうの企業のほうも、そういったことも含めて、子供たちをどう受け入れていくのかということも取り組んでいただければありがたいなというふうには思います。

【部会長】

私のところなんかは、魚の駅に行きたいのはなぜかというと、魚をもらって帰れるなんていう話だから、大分意図的なところがあるわけですけれども、それじゃだめなんですよ

ね。だから、どういうところがあって、自分がみんな見て、そこをチョイスするんだと、選択するんだということが必要なので、無料で、産業観光で、ＹＫＫもいい、発電所も黒部峡谷鉄道も見てという、そういうのを無料で、それと教育を結びつけるとかね。そういうので､要は､市内をいろいろと勉強してから１４歳の挑戦とかあってしかるべきかなと。ぜひとも、事務局、そういう観点からよろしくお願いします。

【Ｈ委員】

それと、今ほど言われたように１４歳の挑戦については、そのように中学校ではその時間帯というものを設けてあると思うんですが、小学校などは、そういう場合、今の農業なりいろんなことで体験学習なり、授業の中にそういう団体のカリキュラムなどの余裕があるんでしょうか。事務局、どうでしょうか。

【部会長】

どうですか、余裕という面で。

【事務局】

ご承知のように昨年、今年と、中学校、小学校ということで、全国の教育方針も変わりまして、ゆとり教育から、少しずつ、もうちょっと学力も重視したそういう授業時間数も増えてはおります。しかしながら、今まで総合学習とかそういうものに向けられた時間が決して減るということでもございませんので、黒部の場合は相対的な部分をかなり、英会話などに振り向けておりますので、他市よりもその部分が、いわゆる総合部門の中に体験学習などが、必ずしも、ほかの市よりも多いかどうかというのはちょっとおきますけれども、やっぱりそういうものは非常に重視されておるわけであります。

先ほど、垣根を超えてということで、第５部会のほうで、学校教育の充実の中に、学校、家庭、地域などとの連携強化というところで、そういうところでもございますし、どこに書くかは別として、今、たまたまそういうことも含めて、いろんな地域の持つ、農業、工業、観光にしても、いろんな部分も含めて、それぞれの連携強化、地域との連携強化、あと、地元の黒部の、仮に、工業で言えば、すばらしい国際的なノウハウを持つ、そういう企業等もたくさんございますので、そういうところをよく知るということが非常に重要ということを、どこかに盛り込む必要があるのかなと、今ほど思ったところでございます。

【H委員】

よろしく、その辺を。

【部会長】

よろしくお願いします。

【H委員】

作文を書いても実践されないと、今の検討した意味もないと思うので、その辺を十分に、実践されるような対応をしてもらいたいと思いますけど。

【事務局】

そういうことも含めて、先ほど申しましたように、特に、今、小学校という話が出ましたので、また、近々小学校長会も開かれますので、そういうところでこういう振興計画の部会の中でご指摘もあったということを含めて、改めて確認させていただきたいと思います。

【H委員】

たまたま私のところにも、今年も上部団体から、米の一生という、そういうふうな冊子を送りましょうかと、渡しましょうかと。４年生や５年生を中心にして渡しましょうかということで、学校のほうへ聞いたら、あまりいい返事をされないんですよね。そうしたら、中には、学校の先生でも熱心な、以前にはおられて、ぜひ、バケツの苗から稲をつくるバケツ稲作ということで、熱心に、中には先生がおられたもので、たまたま農協も協力したんですけど。最近、何かそういうものを持っていったら、いや、ちょっと時間的に云々というふうなことも聞いたものですから、じゃ、今ではだんだんこういうことで変わってきたのかなということも思ったわけで、ちょっと質問したわけです。それは、我々、どうのこうのとは言えないと思うんですが、やはり、今ほどのような形で、実践的な教育もほんとうに大事だということで、要は、ほんとうに実践をやってもらうための方法を、時間的にあるのならやってもらいたいと思うんですが、そういうことでよろしくお願いしたいと思います。

【部会長】

子供たちは一回田植えを経験すれば一生忘れません。だから、そういう何回でもというんじゃなくて、やっぱりそういうことをお互いに連携して、協力し合ってやるということかなというふうに思いますね。漁業だったら地引きをやるとか、そして、昔はこういうふうにしていたという中を一回経験すると、それで、何かあったときでも利用できるということで。

Ｄ委員も、生地小学校の皆さん方に、案内とかなにかは。

【Ｄ委員】

直接、依頼があるんじゃなくて、やっぱり売り込みに行かないと、こういうのをやっていますのでいかがでしょうかと言いに行かないと、今言われたように校長先生が変わられると全然方針が変わってきて、担任の先生が変わるとまた変わってきて。最初のうちは２日間とっていただいたんですけど昨年は１日しかとれませんのでと言われて案内したりとか、先生などが変わると全然変わってくるんですね。教育委員会の担当者にお願いに行ったりとか、こちらのほうから売り込みに行くという状態でやっているような状態だと思うんですね。やっぱり上のほうから言っていただけると、先生たちも、校長会とかそういうところで話をしていただいて、そういうチラシもみんな持っていって配ってくださいと言って、それからやっと依頼があるというような状況なので、やはりもう少しそういうところに力を入れていただければいいかなと。

【事務局】

おっしゃるとおりだと思っています。それで、加えて、今日の新聞にもありましたように、土曜日の生地のまち歩きに向けて生地小学校の子供たちが清掃活動をしていたと。まさに、その地域に根づく地域貢献活動の１つだと思っておりますので、こういうものを含めて、いろんな形で、体験学習とかそういう部分も含めて、時間数の減らないような形を含めて、これが大事なんだということを改めてまた話をしていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

【部会長】

つけ加えて、ある地域では、小学生の人が観光ボランティアの案内係をして、大好評を博しているといったところもあるんですね。だから、１回人に教えるということは２回学ぶという、昔そういうふうなことを教えていただいた先生もいます。そういうのでしっかり、この地域の歴史が皆さんの頭の中に入っていくということもあるというふうに。そこまでは望みませんけど、それに近いところまでぜひともひとつお願いしたいというふうに。

それでは、工業の振興から、２―３の商業の振興についてお諮りをしたいというふうに思います。ご意見がありましたらよろしくお願いします。

なかなか難しい課題でありまして、前回もいろんな意見が出ていましたが、なかなか、この商業については、空き店舗が多い中、そして、やめられる方が多い中で、シーソーゲーム、対策で、たくさんの方に入っていただいたなと思ったら、やめられる方がたくさんおられて、結局はマイナスになっていたよとか、そういうことがあるわけでありますが。

私からばっかり意見を言って申しわけないんですけど、皆さんで議論をするというこの意見を入れていただきまして、ほんとうにありがとうございました。これからはそういうことだろうなと。そして、地域がどういうふうになっているのかというその実態を、やっぱりきちっと把握して議論していくことが必要なのかなと。だから、地域と、どうしても、実態とのミスマッチがここの言葉に中にあらわれてきているのかな、あらわすとこれしかないんだろうとは思いますが。

そういうことで、事例としては、昨日聞いた話ではありますが、実際にどういうことかわかりません。お隣の魚津市で、中央通りですか、そこがどういうふうになっているかという実態を調査したら、どうも、２人住まい、お年寄りの、後継者もいなくて２人でやっていらっしゃる、あるいは１人になっていらっしゃる、そういう方が非常に多いということがわかってきて、ここにも書いてありますが、買い物弱者に近くなってきているような、自分たちが商店街に住みながら、そうなっているという実態がわかってきて、そして、あそこの真ん中に総菜屋をつくると。そして、その隣には、そこで食事もできる、みんな食べていけるように、朝、昼、晩食べられるように、それは交流場所にもなる、そういうことが６月末から出発するという話。それも、ちょっと忘れましたが、２０円だったか５０円だったか１００円だったかわかりませんが、グラムで、そこで自分で選んで、そして、はかっていくらかと、２種類ランクがあって、それで、はかり売りをするということをやりますと。

だから、それは、その地域にそういうお年寄りしかいない、大多数がそうなっちゃって

いるから、買い物難民に近くになっているからそこにそういうのをつくって、食事だけでもきちっととれるようにしようよというのがその発想なんですね。だから、そういう点では、地域の調査をきちっとされて、そして、何が必要かということを適宜判断されたということ。成功するかどうかはともかくとして、わかりませんが、そういう取り組みが実際になされたということであります。

そういう点では、この中では文言としてはきちっととらえてはいるんですけれども、そういう、黒部としてはどうすればいいのかということを、やっぱりもう一歩踏み込む、大分踏み込んでいただいたわけでありますが、踏み込む必要もあるのかなというふうにも思ったりしております。

Ｆ委員さん、いかがでしょうか。

【Ｆ委員】

今の文言としては、これでいいのかなと私は思っております。要点もしっかりと入っていますし、新商業立地の調整という項目の中で、それから、少し、中心商店街という考え方が、ここで変わってくるのではないかと、もちろん、人の流れが変わってくることが考えられますし、そういう意味では、商業の立地の場所というか、そういうものも長い目で見ていきますと変わっていかざるを得ないのかなと思いますね。そういうポイントも書いてありますし、部会長が言われましたように、具体的な落とし込みの中で、より皆さんにサービスをしていけるような形がとれるのかという部分では、十分に議論の余地があるんですけれども、やっぱり難しい。

あと、目に見えて成果といいますか、その効果があるのは、その空き店舗をいかにうまくやってもらうかという部分では、目に見えて効果がある施策かなというふうにも思っております。やっぱりその中心商店街という考え方が、ほんとうにこれから変わりつつある、黒部に限らずどこでもですけれどもね。住居と一緒じゃないですか、お店と住居と一緒だから、なかなか難しい部分が、閉められて、もう一回あけてもらうという流れは難しい部分がありますよね。

【部会長】

だから、こういったところでも、商業と工業のコラボレートということで、２回目のときですか、知識集約型のそういう企業に、そういうところに入ってもらうとかって、そう

いうのも議論したところでありますね。

【Ｈ委員】

それはどこでもでしょう。

【部会長】

どこでも、日本中どこでもです。

【Ｈ委員】

どこがどうというわけじゃなく、日本全国でしょう。

【部会長】

だけど、それで終わってはだめなので、そこからもう一歩踏み込まないと。

【Ｈ委員】

わかっているんですけど。だから、やはり黒部の場合でも、今、新幹線のほうに絡めて新幹線のほうへ力が入っているようですが、やはり昔の中心市街地というのは廃れていっていると。そういう中で、それら２つの整合性を図りながら発展させるということは、なかなか難しいと思うんですけど、現実には、やっぱり農業もだんだん高齢化云々というんだけど、商業もだんだん高齢化と、廃業をされるという形で、先ほども出ておったように大変寂しい町並みというわけですから、何かやっぱりそこら辺に、発想の転換というんですか。

当然、宇奈月のほうの観光も１つの節目と、旧市街地を何か変わったことのまちの並びも復元させ、生地のあたりでも漁業のまちあたりを何かちょっと整理した中で、宇奈月の観光を見た後、下の生地のほうなり、三日市の旧市街地のところにも来て、そこを、まち歩きを楽しんでもらうなどという１つの、山から海のほうへの流れを１つつくって、幅広くこの辺をＰＲするということも、ひとつ大事じゃないかな。これは、文章ではなかなかまとめづらいですけど、そういうことも１つの流れだし、例えば、富山の岩瀬あたりでも、昔の舟の、町並みというのを残して云々ということも力を入れているというようなことと合わせた中で、黒部も新幹線の周辺も整備する必要があるんですけど、その反面、旧あっ

たところも、整備したり、昨日、コミュニティセンターへ行ったら、生地にも自転車まで置いているんですから、そこまで力が入っているならもうちょっとＰＲなど、お客さんに来てもらうような方法を、アイデアというんですか、出してもらえばいいんじゃないかなと、自分なりに思ったんですけど。

【部会長】
ぜひともアイデアを。

【Ｈ委員】
いやいや、言うだけでございますけど。

【部会長】
まさしくそういうことで、ただ、財政も逼迫しているところで、岩瀬みたいな町並みが、じゃ、今生地にできるかというと、それは望むべくもない話でありましてね。だから、今のままで何ができるかという、それは三日市なんかも、今のままで何ができるのかといったところだと思うんですよね。だから、意外と、いろんな発想を積み重ねていくと、可能性はなきにしもあらずかなと。全国どこもみんな失敗しているじゃないかというふうに言われますけど、特異なところは、やっぱり成功しているところもあるんですよね。

例えば軽井沢なんかは、旧市街地まで４キロ、ちょうど新幹線と三日市が４キロですから、そういうところに、人が、駅前には安いブランド品の店があって、そこへ行く人と旧市街地に行く人と、そういう色分けがついていってですね。だから、軽井沢と比べようがないよと言われるかもしれないけど、軽井沢には海がないし、ここは、海から山までコンパクトにまとまっている、そういう意味では軽井沢に負けないねという気もするわけでありますけど。あとは、知恵を出して、小さい金でどういうことができるかということを模索していくべきところじゃないのかな。だから、ここに、文言には、そういう地域の人が集まって検討する、話し合うということから始めていかないと次が見えないねと。あきらめてしまったらそれで終わりということだというふうに思います。

生地にもいろんな歴史があって、三日市にも佐野源左衛門常世の歴史があって、あるいは、１２００年代の親鸞聖人の座られたところなんかもあって、それがきちっと残っているわけですよね。だから、そういうものをちょっと結びつけるだけで、このまちが輝いて

見えてくるというふうには思うんですね。だから、それは、住んでいる人は気づかない、こんなまちがと言って、生地だって同じだと思う。D委員が頑張られたからここまで来ましたけれども、生地だって、住んでいる人は、何、こんなまち、だれも来ないよということから始まったんですね。だから、そういうことを、やっぱり高いところかどこかわかりませんが、部外から指導してあげるということが必要なんだと。それは、行政の皆さん方が、適宜そういう高い見識を持って指導していくということが必要なんだろうというふうに思います。金を使えばいいという話じゃなくてですね。

何か変なところへ行きましたけど、申しわけない、脱線して。

【H委員】

要らないことを言ったから、済みません。

【部会長】

いえいえ。

次の２―４の観光の振興というところに入らせていただきたいと思います。

景観ということで、こういうふうに景観を強調していただきましたので、ありがとうございました。そういうことも含めて、何かご意見があればお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

おそらく行政のほうでは、景観条例までは行かないと思う。景観への指針とか、そういうこれからは広報活動というか、そういう意見集約も含めて、広報活動をするという、そういうことは大切になってくるのかなというふうには思いますが。ただ、新幹線、先ほどの新幹線開業まで、そういうことが間に合うのかどうかと言われるとなかなか厳しいスケジュール表でありまして。

あと、今日も、C委員も欠席されていますので、専門家のご意見を伺う機会があまりなかったわけでありますけれども、F委員、いかがですか。

【F委員】

景観という部分で盛り込んでいただくという大きなのはありますし、この景観を読んでいますと、町並みとかという部分だけというふうに思って、「などの」となっていますから違うんだろうなと思いますけど、峡谷とか自然景観といいますか、そういう部分という

のは、やっぱり観光にとっては非常に大きな要素だというふうに考えますので、そういう見方ができるような文言にちょっと変えていただければいいのかなというふうに。

【部会長】

ここには「街並みや自然、農村など」と。

【Ｆ委員】

自然ってあるんですけれども、町並みや自然ってありますから、それを指しているんだろうという察しはつくんですけれども、峡谷とかその辺を意識したようなですね。

【部会長】

表現ですね。ご意見をお持ちの方がいらっしゃいますので、それをちょっと、黒部峡谷をちょっと協調した書き方にしてもらうと。

黒部峡谷鉄道の皆さん方も非常に頑張っていらっしゃいまして、いろんなことを積極的に今やっていらっしゃいます。そういう点では、行政もそれをバックアップしていくということは大切だと思いますね。従前からの社長さんもそうですけれども、今の社長さんは、特に、やることはきっちり、しっかりとしていらっしゃいます。

【Ｉ委員】

全体の感じから言うと、現況と課題、これはこれでいいとは思うんですけど、やはりもうちょっと具体的に、黒部峡谷の話もされたんですけど、黒部峡谷、宇奈月温泉、あるいは、生地を含めて、もう少しより具体的な観光というものの節目というか、そういった特定するものを、やっぱり少し入れたほうがわかりやすいものになるのかなという感じはします。これだけだと、若干、黒部の要素は入っているけど、ほかのところへ持っていっても通用するような文章ではないかなという気がするので、もうちょっとそこの部分を、もし盛り込めるものであれば盛り込んでいただければいいのかなという気がします。

【部会長】

これを宇奈月温泉の方へ見せても、何だと言われそうなんですけどね。

新幹線の開業までは、総湯館というか、分湯を３つぐらい町なかにつくるということが

ありましたが、それは新幹線開業までに間に合うんですか。

【事務局】

今ほど部会長さんが言われた、温泉街での、総湯も含めた公共施設も相当古くなってきておりますので、昨年から、温泉街の公共施設等のあり方検討委員会ということで進めさせていただいております。今年度も、もう少し計画づくりということで進めるわけですが、そういうことで、自治振興会さんからも、めぐり湯というような感じで要望も出てきておることを踏まえて今計画づくりを行っているところで、この後期の中での具体的な計画の中に盛り込みたいという思いです。ただ、新幹線開業も２年ちょっとということですが、今からは、時期的には難しい面もあるかなという、担当では思いをしています。

【部会長】

今年は電鉄宇奈月駅から峡谷の黒部駅までの、あのプロムナードの環境整備はなされるんですよね。入っていなかったですか。

【事務局】

プロムナード……。

【部会長】

というか、峡谷鉄道の駅に行くまでに、バスが行って、道が狭くなっていますよね。あそこを、歩道をきちっと整備して、オーバーハングというか、鉄道のほうのところに歩道をつくる、それはやられるんでしょう。そういう計画になっていませんか。

【事務局】

それについては、バスはトンネルのほうを行きますので。

【部会長】

一方通行にするという。

【事務局】

あそこはもう通りませんので。だから、お客さんが電車をおりて、峡谷鉄道の駅まで行きやすいようにということで……。

【部会長】

あそこは、一般の車、バスは通らなくなったんですか。

【事務局】

バスは通っていません。

【部会長】

そうなんですか。

【事務局】

一般の車は通ります。

【部会長】

旅館から、例えば行くといっても、向こう周りで行くという。

【事務局】

はい。

【部会長】

そうですか。そうしたら、それだけで終わり、何か整備されるとかという話は。

【Ｆ委員】

お願いはしていますけれども、まだ、今年とかという話じゃないと思う。

【部会長】

そうですか。

【事務局】

あそこでの空き店舗などについては、商業部分のほうで対策をしているというふうな状況です。道路の整備については、今年は特に動きませんので。

【部会長】

そうなんですか。何か整備していただけるんだという話を、聞き間違えたのかな。

私の頭の中では、それが今年あって、来年ぐらいにはめぐり湯ができるのかなと。そうすると、宇奈月の人たちにはインパクトはきちっとあるねというふうには思っていたんですけど、それはないということですね。

【事務局】

今、計画づくりをやっているところでございます。

【部会長】

計画づくりをやっていると、そうですね。

【Ｉ委員】

だから、具体的にいつやるかやらないかというのは、これからの課題だろうと思うんですが、ただ、やっぱりこの中には、そういうような方向づけというか、そういう文言を入れてもらえれば話がわかるのかなという気がします、後期計画の中でね。

【部会長】

それは、入れることはできるんですか、そういう具体的な事例としての形で、項目で入れることはできるんでしょうか。ちょっと細か過ぎるのかな。

【Ｉ委員】

細か過ぎるかもしれませんが、ただ、黒部市の観光の中核は、やっぱり黒部峡谷と宇奈月温泉、そして、生地だと、先ほど、部会長のまちの中という話もありましたが、そこの部分について、重点的にやっていくというような方向づけをしたほうがいいのかなという気がしますね。

もう一点、今日は確認ということなのでちょっとお聞きしますが、観光客の入り込み数というものの数字が、平成２９年、３００万というふうになっているんですが、これは、大体こういう流れでいくとこうなるなというような、目標値というか、期待数なのかなということで、この数字に変化はないということでしょうか。今の現状、ちょっと落ち込んできているような現状があるので、これは当初から３００万だったので、そこの部分について、思い切ってやっぱり３００万でいくんだというふうな思いでおられるんでしょうか。

【部会長】

いかがでしょうか。

【事務局】

これは、観光客の入り込み数ということで、黒部市内の観光施設、新川牧場とか生地とか、全部を含んだものの数字でございます。それについては、黒部峡谷、宇奈月温泉、若干、少しずつ下がっている傾向でございますので、それを、新幹線開業も含めてこれからの施策で、２９年度の目標３００万というような全体計画を持っているわけです。

【Ｈ委員】

それと、もう一つちょっと聞きたいんですけど、宇奈月のトロッコ電車に乗っている人数と、それに対して、そのトロッコ電車を見た後、宇奈月温泉で泊まられる、利用されるお客さんと、比率ではどれぐらいなんですか。何か資料的なものはないものですか。

【事務局】

今おっしゃる資料というのは、なかなかないんですが、相対的にトロッコ電車のお客さんが増えると、全体的には宇奈月温泉に宿泊される方も増えるという傾向はありますが、実際に、黒部峡谷のトロッコ電車に乗られた方の何割が泊まっているかというのは、そのデータは少し手元にはないんですが、傾向とすれば、お互いに相乗的に増えるということは間違いないと思います。

【Ｈ委員】

そうですか、わかりました。

【部会長】

トロッコ電車は１００万とか９０万とかというレベルなんでしょう。それで、宿泊は３０万人。

【事務局】

３０万人、少し切っておりますね。

【部会長】

切っている。

【事務局】

はい、２８万。トロッコも４０を切っているという状態です。

【部会長】

４０？

【事務局】

はい。

【Ｈ委員】

４０万。

【Ｆ委員】

往復での話だから。

【部会長】

往復、そうか、往復なんでしょうね。

【Ｆ委員】

往復だと、利用者数からいくと実際は半分なので。

【部会長】
半分。

【事務局】
３７万、２３年度、落ち込んだのもありますけど、３７万人ですね。

【Ｈ委員】
だから、半分ぐらい、トロッコ電車に乗られた方の半分ぐらいは泊まる方もおられるということですね。そうじゃないのか、半分以下か、半分じゃない。

【Ｆ委員】
昔は朝の電車が混んだものなんです、トロッコ電車は朝。泊まられて、朝、乗っていかれるため、朝がかなり混んでいたんです。今は逆に、お昼の時期が一番ピークになっているんです。だから、そういう場合は、車で来られて、電車に乗って、泊まらずに帰られるという方の行動パターンというのは、お昼の部分ですよね。そういうことが言えると。

【Ｈ委員】
昼が多いというということは、旅館に泊まるという、利用されるというお客さんが少ないということだね。

【Ｆ委員】
昔は旅館のほうで切符を手配しながら泊まった方を送っていってというふうなのが多かったので、朝の電車というのは、結構混んでいたんです。

【部会長】
この宇奈月温泉、それと黒部峡谷も含めて、山の観光についての長期ビジョンというのは、事務局、いかがですかね。どういうビジョンがあるのか。ここではなかなか読み取れないけど。

【事務局】

欅平のビジターセンターなど、そういう中で、山岳方面での観光誘客のための施設整備は年次計画の中にあるので、それは、差し当たって、ビジターセンターをいかに利用してということもありますし、露天ぶろの関係もありまし、その辺は計画しながら、年次的に整備をしながら進めていきたいなというふうに考えております。

【部会長】

ビジターセンターは今年整備されるんですね。

【Ｆ委員】

来年度でしょう。

【事務局】

来年のオープンを。

【部会長】

私なんかも、観光協会、あるいは観光局の中で、一番最初から、露天ぶろの整備をきちっとすべきじゃないかと。露天ぶろは、なぜかというと、外国の人は、着物を着て男女が一緒に入る。日本流にいうと混浴だというと、皆さんが笑って、つい卑わいな話をするなというふうに言われるんだけど、そういうふうなものが普通なんですね。らしいですね。僕も外国のそういうところには入ったことがないものだからわかりませんが、そういうものを醸し出す。黒薙の露天ぶろは、ちょっと脱衣所は別になっていてといっても、日本の男性はすっぽんぽんになっているから女性が入ってこないとか、そういう問題もあったりしますけど。

そういう、僕はきちっと整備をするというのは、着物を着て入ると。要は、水着じゃなくて、浴衣みたいな、ほかの温泉地にはあるところはあるらしいんですけど、そういうことの企画なんかもきちっと、やっぱり。一般の人が言うと何だといって笑われてしまう、行政が言い出すと、ああと言って、皆さん、そうかというふうになってしまうんだけど。その辺もよろしくお願いしたいなというふうに思います。

【Ｊ専門委員】

観光の振興のところで、観光の重要な要素は、そういういろんな景観とか体験とかというようなこと、それから、目的に来られる１つは、やっぱりおいしいものとか、その地域にしかないようなものを味わうといいますか、黒部にもいろいろなおいしいものがありますけど、そういったものを味わいに来られる方のそういう要望にこたえていくというか、そういう食の魅力づくりというようなことを今後盛り込んでいただければいいのではないかなと思います。

前、県庁のほうで、私も食のブランド推進班長をやっておったんですけど、食の街道づくりの中で、宇奈月温泉のおかみさん方に魅力ある食の提供とか語っていただくということで、おかみさん方にお願いしたいことがある。そのときに、いろいろこの地域の農林産物を活用した、例えば、茶わん蒸しを提供しましょうとか、そんなことも考えていただいたというようなこともありまして、やっぱり黒部市全体で、いろんな産業の方が連携をして新しい食の魅力を開発していくというようなこと。

それから、新幹線開業を目指して、うちの所のみんなにも言っているんですけれども、どういうお土産を開発していくかということが非常に重要で、施策の展開方法のところにもそういったお土産開発、黒部にお金をいかに落としていっていただくかと、帰るときにいろんなお土産を買って、宇奈月温泉の黒部駅、生地で買っていっていただいて、お金を黒部市のほうに落としていっていただく、それは、やっぱり食とかお土産の力というのは非常に大きいと思いますので、そういったことをトータルで、施策の展開方針のところに盛り込んでいただければいいのではないかなと思います。

【部会長】

それは、どこかになかったですか。

【Ｆ委員】

ブランド化、新規の。

【Ｉ委員】

ブランド開発としてはあったんです。

【部会長】

実際にはやってきて、ブランド品の、今はお土産。

【Ｆ委員】

今まで、黒部ブランドということで７２品目を認定してきましたけれども、なかなかそれが、これがほんとうの意味でのお土産というふうな形で進んでいかないということから、今年、形を変えていこうということで、今までの７２品目についてはお土産推奨品的な部分に絞って、ほんとうのブランド化といいますか、地域ブランドと言ってもいいのかもしれませんけれども、そういうものを開発していきたいということで。今まで応募していただいた７２品目はなしだよということにはいきませんので、ひとつ置いておいて、かなり上に行くようなものにしていこうと。

ただ、ブランドというのは、やっぱり自分たちがこういうブランドですというよりも、皆さんに認めてもらって、知名度が上がっていく中でのブランド化だというふうには思っていますので、その辺をうまく。あるいは、お店の中でも今ブランドで出している部分よりも、ほんとうはこっちのほうが売れ筋なんですよというものがあったりなんかしていまして、そういうものを出していただいたりなんかしながら今までの黒部ブランドを見直していこうという動きはしています。

ただ、言われるように、新幹線開業までに、これですというようなものをぜひつくっていきたいなという思いはあるんですけどね。

【Ｊ専門委員】

やっぱりお客さんたちが買うポイントというのは、ここでしか食べられないとか、ここの農林水産物を活用しているとか、そういったことがポイントになってくると思うので、その辺は、今、７２、選定されている品目を、さらに磨いていくようなことが非常に重要だと思います。

【Ｉ委員】

だから、それはやっぱりここに住んでいる人たちが、ほんとうにこれは人に勧めてもいいと言えるようなものだといいんですね。

【Ｆ委員】

勧めてもいい、そういうものが。

【Ｉ委員】

だから、例えば、前から部会長が水だんごの話をされますけど、水だんごだって、もっと黒部の市民が、これは我々の宝みたいなつもりで、それを、とにかくお客さんが来たらその水だんごを出すと、生地に来たら水だんごを出すと、宇奈月に来たら水だんごを出すというような形で、それをブランド化していくということがやっぱり大事なんじゃないかなというふうにね。だから、やっぱりもっと地域全体を巻き込んだような形で、黒部の土産品であり、あるいは店にしたって、そういうものをつくり出していかないと。あるいは、今まであるものを活かしていくというような形にしていかないと。これ、黒部の名産ですよというのをひっくり返してみたら、ちょっと違うよみたいな感じではちょっとぐあいが悪いなと思うんです。

【部会長】

委員会の中では喧々囂々の議論をしまして、ある方は、例えですが、広島のもみじまんじゅうは、あの地域で、みんなでつくってみんなで売っている、それでブランドになった。今、黒部で六十何品目、７０品目に近いところのものがあるけど、それをみんなじゃだめだろうと。だから、例えば、今言われたように水だんごをみんなでやる。そうしたら、それはほんとうのブランドになるけれども。ここの地域に来ないと食べられない、今、まさしくこの地域の味わいとかなんかはほかへ出さないで、ここでしか売らないとか、そういういろんなことを大枠で決めて、旅館さんも全部協力してやるとか、そういうことをしていかないと。１つブランドを決めて、それでというと、その企業がもうかって、あんたのところだけもうかっていいのかという話になるわけで、そうじゃなくて、みんながもうかるような仕組みをつくった取り組みをという話もあったわけ。ただ、それが何かというところがなかなか見えてこない。

旧黒部市観光協会から始めて、それは１０年たてば見えてくるだろうというふうにやったわけですが、それはなかなか見えてきませんでしたね。だから、ほんとうにやるんだったら、そういうところまで踏み込んでやらざるを得ない。みんなが、これがいいね、じゃ、

みんなでやろうよというその決意ができるかどうかということになるんですね。

それと、味わいをということで、この黒部へ来なければ味わうことができない、なかなかそれが難しい。お米だって、全部、全国、消費者がいるわけだし、どこでも黒部を食べられる。黒部へ来ないと食べられないというその仕掛けが、どうすればいいのかわからないという。

魚は、確かに、魚の駅で食べないとあれだけの新鮮度の魚は食べることはできない。それがようやく今わかってきておりますけど、それでも、あれを急速凍結して、要は、瞬間凍結をして、刺身状態で東京に送れないのかとか、そういうことを逆に試行錯誤しようとしているわけでありまして、そういう意味では、今、作井さんが言われたことと相反することをやろうとしているということになるわけですね。だから、いいものがわかっている、じゃ、それをみんなに知ってもらおうといって、地域から外にほうり出してしまう、そうすると地域がなくなってしまう。そのかわり、全国売り上げは伸びていっている。そういうジレンマは出てくるんですね。

すごい各論の中に入ってすごい議論をさせていただきました。

それでは、こういう形で……。

【Ｄ委員】

支援のところとかは、観光ボランティアに対しての意見なんですけれども、横のところに、協働体制の欄には、ただ、観光ボランティアとしか書いていないんですよね。先ほどから生地観光ボランティア、生地の話をよく、まち歩きは生地だという話をしておられるんですけど、三日市とか宇奈月もありますし、石田もあります、天真寺もＮＰＯでやっておられますから、ただの観光ボランティアだけでいいのか、ボランティア団体としていただいたほうがいいのか。

まだ団体というか連絡協議会はできていないんですけど、何かそういう形にしないと、ただ観光ボランティアというだけでは、何か力が弱いような感じがしますし、これからも育成ということになって、前は県などで養成講座などがあってそこへ私たちはみんな参加していたんですけど、そういうものもなくなってしまって、富山県のボランティアの人たちが、みんな不安を抱えておられるというような状況なんですよ。ほかの団体との連携がとれないということで、この間も朝日のほうで話し合ったりして、やってほしいねという話はあるんですけど。

黒部自体も、やっぱり先駆けでまち歩きをしてきたんですが、あまり最近の状況、１１年過ぎて盛り上がりが全然欠けてきていて、何か新幹線が来てほんとうに受け入れ体制ができるのかという不安が、ずっと最近あります。私たちも独自で、生地の観光ボランティアでは養成講座ということでやることにしましたけど、やはり自分たちだけではできないので、支援として、ほんとうに市がどこまで支援していただけるのか、そういう点が不明なんですよね。あなたたちで先にやりなさいという話ばかりで、どういうふうな、先ほども言った、援助とか支援をしていただけるような形をつくっていただかないと、私たちもやっとそういうところまでこぎつけましたけど、これから、じゃ、ボランティアの養成というのは、黒部市がどういうふうにしていかれるかというのは全然この中で見えてこないんですよね。

黒部市がほんとうに観光を目指しておられるのかどうかということも、ただ、新幹線が来ます、新幹線が来ますだけでは、ほんとうに受け入れられるのかというのは私たちも不安ですし、黒部市民の人たちもほんとうに観光地だという気持ちがあるのか、市役所の人たちもそういう気持ちがほんとうにあるのか、ボランティアだから、ボランティアにあとは任せればいいという話ではないので、私たちも、黒部市に来られる人たちをどうやっておもてなしをしようと、これからのリピーターになっていただくために１０年間やってきたんですね。

そのおかげでここまでになったんですけど、これから、もうちょっと充実したものにしないと、お客さんたちは飽きてきますし、生地だけではだめだと思うので、黒部市全体でのボランティアの育成というのをどういうふうに考えておられるのか、そういうものをもう少し具体的にこの中に書き込んでいただかないと。ただ、まち歩きに参加します、積極的に参加しましょうとか言われても。

具体的に言うと、市役所を、定年を迎えられて、その方たちがほんとうにボランティアのところに参加しておられるのかなという面も、統計を一回とっていただきたいなというぐらいに。例えば、ＯＢがまちの清掃をするとか、何かそういうのを昔やっておられたような気がするんですけど、最近はそういうのもなくなってきているんじゃないかなと。役所の人たちの意思の疎通ができているのかなという不安があります。

もう一回聞きますけど、ただ、観光ボランティアだけでいいのか、ボランティア団体として、皆さんの気持ちを、やるぞという気持ちにしていただけるような、表現の仕方をちょっと変えていただければいいかなと思います。

【部会長】

いかがでしょうか。たくさん言われましたけど。

【Ｄ委員】

ふだんのうっぷんがみんな出ましたけど、済みません。

【事務局】

今ほど委員さんが言われた課題はあるということで、私ども少しは認識しておるんですけど、いろんな団体が出てきたということで、そういう、連絡調整するような、連絡会議みたいな組織づくりをやっていけたらいいんじゃないかなとは思っていますが、そのあたりも、Ｄ委員に主導的にお願いできないかなという思いもあるんですけど。

それとあわせて、行政も支援を行わなければないんですが、やはり、継続的な運営、持続的に自立していただきたいということで、そのあたりも少しずつ進めなければならないんじゃないかなという思いではおります。

そういうことで、いろいろと課題があるんですけど、また、行政もいろいろと聞かせていただいて、できることについてはやらせていただきたいと考えています。

【Ｄ委員】

よろしくお願いします。

【事務局】

そういう文言、団体などについては、修正は可能かと。

【Ｄ委員】

団体というか、入れられたらいいですね。

【部会長】

「各ボランティア団体」という格好で、７ページですね。７ページしかないですね。

【事務局】

いろいろ、６ページにもですね。

【部会長】

６ページも。

それと話の中に出ていましたが、いろんな地域で視察をしてきますと、市の職員のＯＢの方が観光ボランティアを、たくさんやっておられる地域があるんですね。そういう点では、何かしらそういう指導じゃないけど、皆さん退職されると自由なのであれでしょうけど、地域活動への貢献というか、そういうものについて、何かしら広報活動をお願いはできるんでしょうか。これは、内緒の話でございますけれども。

【Ｄ委員】

ここで言うのもなかなか難しい。

【事務局】

市長も日ごろから、市の職員はいろんなイベント活動に参加するようにということでは指示されております。その中で、市民、あわせて職員も一市民として、そういう奉仕活動等ボランティア活動に積極的に努めるべきだと思っておりますので、そういうご意見があったということで、総務のほうにもこれは伝えたいと思っていますが。

【部会長】

お年を召した方は結構入っていらっしゃるんですけど､そうでない退職された間際とか、そういう方の入り方が見えないということでありますので、よろしくお願いいたします。

【事務局】

ちょっと立場は違うんですけれども、たまたま、私、前、担当をしておったものですから、今、ＯＢの年金者連盟ということで、市は事務局でありますが、たまたま今日総会があるわけでありますけれども。

【部会長】

ぜひともそこで。

【事務局】

そういうところも含めて、話とか、担当者が出席いたしますので、こういう話があったということを話します。

【部会長】

よろしくお願いします。

【事務局】

それと、もう一点、あくまで私の私見でありますけど、実は、同じような話が、Ｄ委員からいろんなボランティアの新たな方々が足りないということで、その戦力として、例えば、市のＯＢとか教員ＯＢとかという話は、実はあったところであります。

今、部会長さんがおっしゃいましたけど、私も米沢市へ行ったときに、２００人余りのかなり大きいボランティア団体で、あそこも当然観光地でございますので、そういう方々に、人材に苦慮しておるという面もありました。それで、教員ＯＢは案外すんなりと、そうやって解説員も含めてやっているんですけど、米沢市役所のＯＢは、現役のときは立派なことを言っていても、なかなかやりたがらないというか、そういう人が多いということで、地元のそういう立場の方に不満も言われました。それで、そういうのを考えて、私も同じような考えを持って、じゃ、黒部はどうなんだろうと、これからは完全な私見でありますけれども。

最近、定年になってもまだ働く人が多いというそういう部分もありますけれども、例えば地域の役員とか、振興会の役員とか、町内会長などをやられる方もたくさんおいでになります。あと、反面、女性を中心に、趣味、芸術関係団体のそういう中枢メンバーが、市の職員のＯＢの方だったり、そういう趣味の世界というか、そういう世界に走られる方もたくさんおります。ですから、観光ボランティアという形で、そういうところに方向づけできるのかなと思いつつ、まず、やり方をちょっと検討していかなきゃいけないんじゃないかと。決して、否定的で、退職したから、あとは自分の世界だけということではないと思うので、当然、我々も、ここにいるメンバーも、いわゆる税金で給料をもらっているという立場で今仕事を終えるわけですから、それぞれ地域に対する思いというのは皆さん強

い思いを持っていると思うので、そういうところを、退職後どういう形であらわせるかというのを、もとに戻りますけど、先ほど申しましたように、何かそれこそ年金者連盟の研修会とかそういうところで、改めて、そういう１つのジャンルがありますよということを、啓蒙というか、お願いしなきゃいけないのかなと思って、今ほど聞いたところでございます。

【部会長】

よろしくお願いします。

そのほか、なければこれで分野別の基本計画素案についての議論を閉じたいというふうに思います。

次に、後期基本計画の策定にあたってということで、事務局から説明をお願いいたします。

【　説　　明　】

【部会長】

皆さん、ご意見ありませんでしょうか。

時間も差し迫った中で、こういう大きい観点からの見方ということでありますが、本来こっちのほうから議論しなきゃいけなかったのかもしれませんが、いかがでしょうか。

特段のご意見がなければこれで閉じたいと思いますが、いかがでしょうか。

【Ｆ委員】

先ほどの垣根を超えてという話がありましたね、そういう部分が、こういうところに盛り込む、今の農業、工業とかという部分だけじゃなくて、全体のことが言えるわけですね、いろんなものがかかわりがありますから。そういう部分の中での４つの視点で、こういう、すごくいい視点だと思いますので、部会ごとの切れ目といいますか、そういう部分のつながりが盛り込まれれば。

【部会長】

例えば、この中に垣根を超えて、すてきな言葉で何か一言。

【Ｆ委員】

ここで何か直接的で、何か。

【部会長】

直接的、何の垣根だって言われてしまう。

【Ｆ委員】

何の垣根だって。言葉としては、なかなかあらわしにくいんですよね、そういうのはね。でも、全部それぞれかかわりがあるものだと思うんです。

【部会長】

何か、でも、分野の垣根を超えてまちづくりをとか、そういう言葉は入る可能性はありますかね。入れるとしたら、この辺ぐらいが一番、３ページのこの下あたりをちょっと下げて、ここに一文あるとすばらしい。

【事務局】

３ページ目で申し上げますと、この第３節、今ちょうど出ておりますけれども、そこの解説の説明文のあたりに盛り込めるかどうか、少し検討させていただこうかなと思います。

【部会長】

ぜひともお願いします。

【Ｊ専門委員】

ここに、重点的な事業の推進による着実なまちづくりと書いて、これはそういうことだとは思うんですけど、やっぱり市民の皆さんが共感を覚えるような、黒部市はこういう後期計画で、こういう方向を目指しているんだという、何かキャッチフレーズがあるといいなと思いますね。

【部会長】

こういうかたい言葉じゃなくてですね。

【Ｊ専門委員】

黒部市は、皆さんそういう方向を目指して輝いていきましょうみたいな、何かキャッチフレーズがあると、皆さんのほうも、より、みんなで行きましょうってなる。そういう点はどうかなと。

【部会長】

いかがですか。今のこの重点的な事業の推進による着実なまちづくりは、括弧書きぐらいにして、キャッチフレーズ、何かいい、皆さんの知恵で、市民が納得するような、明るい発想豊かな。

【事務局】

市民憲章に書いてあるようなまちづくりでいいのかなと。

【部会長】

いいですね。そうだね。そういうので、そこは行政の皆さん方でお考えいただくということで。

それでは、これで本日の議事が全部終了いたしましたので、今回で最後ですね。

【　説　　明　】

【部会長】

じゃ、これで終わりですね。

【事務局】

はい。

【部会長】

４回にわたりまして、貴重なご意見を議論させていただきましてほんとうにありがとう

ございました。

私から言うのもおかしいわけですが、ヨーロッパの言葉で、４本足の動物はよくて、２本足の動物はだめなんだということわざがあるようでありますが、じゃ、人間がだめなのかというとそうじゃなくて、社会基盤として、いろんなところの足がしっかりとしたものでないと社会というのはよくないんだというお話だそうでありまして、そういう点では、第１次産業から第３次産業まで網羅させていただきましたこの第２部会というのは、市の根幹をなすものであったというふうに思っております。

そういうことで、私自身もこの漁業という中で、皆さんからいただいたご意見をいろいろと活用させていただきたいなというふうに思っております。各委員におかれましても、ぜひとも、言葉だけに終わらないようにしていただきたいなというふうに思っております。そういうことで、６月６日にはぜひとも出席をして、皆さん方のご意向を伝えるというふうに思っております。それで、８月下旬、最後でありますので、ひとつよろしくお願いいたします。

今日はほんとうに、どうもありがとうございました。

―― 了 ――